

## 陸奥湾の不思議たち

東北大学浅虫海洋生物学  
教育研究センターの研究から

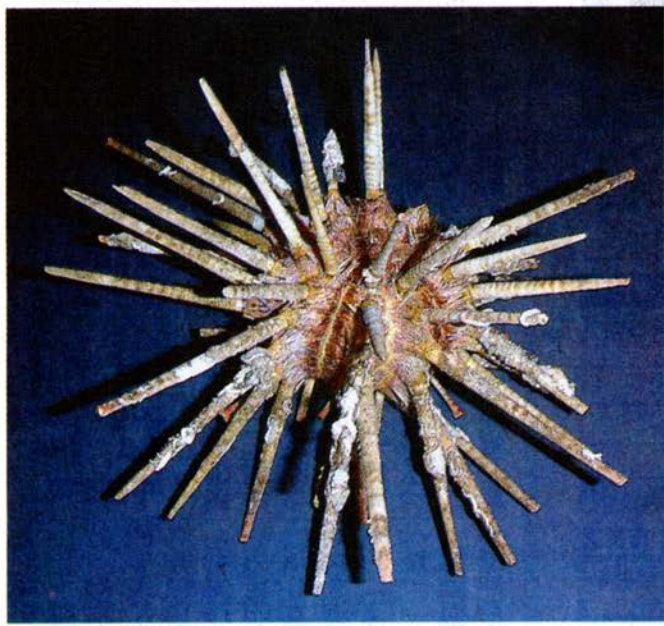
使って研究しています。普段は青森産のウニを使いますが、研究によっては陸奥湾では手に入らないウニが必要になります。

研究員Yさんは骨形成メカニズムが専門です。ウニのとげや殻を構成する骨がどのようにできるかを研究しています。研究は順調に進み、骨作りの仕組みも長い年月をかけてさまざまなに進化したことが分かりました。そうなるに興味を湧くのは、骨を作る仕組みの「祖先型」です。「祖先型」からさまざまなバリエーションが生まれる過程が「進化」です。

ウニの骨形成メカニ

## 骨形成の進化を探る

殻の直径が約8センチにも育つノコギリウニは陸奥湾では見かけない。まずくて食用にはならないが、研究材料としては重要なだ



ズムの「祖先型」はどのようなもので、そこからどんな進化の物語が始まったのでしょうか？「祖先型」の研究材料には「原始的なウニ」がよそつです。ウニの仲間ではキタリスと呼ばれるグループが原始的といわれているが、残念なことに陸奥湾にキタリスはいません。九州のある地方でキタリスの一種ノコギリウニが網に掛かることが分かりました。ノコギリウニは、他のウニでは語ることのできない生物進化物語の貴重な「語り部」なのです。

## 九州からウニ輸送

九州からウニ輸送。ウニの仲間ではキタリスと呼ばれるグループが原始的といわれているが、残念なことに陸奥湾にキタリスはいません。九州のある地方でキタリスの一種ノコギリウニが網に掛かることが分かりました。ノコギリウニは、他のウニでは語ることのできない生物進化物語の貴重な「語り部」なのです。

今、Yさんはノコギリウニを使って骨形成の進化物語を解説しつつあります。食べられないウニをはるばる輸送したのはこの物語を聞かためです。ノコギリウニは、他のウニでは語ることのできない生物進化物語の貴重な「語り部」なのです。

(准教授・美濃川拓哉)